

FY25 Q4 決算発表後に多かったご質問とご回答**全体**

- Q 資本政策のアップデートを発表されましたが、改めて詳細や背景を教えてください。
- A 当社は現預金の大半をドル建てで保有しており、円安による現預金の継続的な拡大やネットキャッシュ比率が4割を超えること等、資本効率に課題感がありました。この度、適正なネットキャッシュ水準を定め、超過資金については自己株式の取得を軸に段階的にリリースし、概ね3年の期間でネットキャッシュ水準の適正化を図ることを決定いたしました。つまり、今後3年間についてはFCFの100%還元に加え、バランスシート上の余剰資金も還元しますので、FCFに対しては100%以上の還元を目指すこととなります。
- Q 中東情勢の影響による原材料調達リスクはありますか？
- A 原油価格の高騰はあらゆる分野に影響を与えており、原材料や物流、エネルギーコストの上昇に対しては、基本的に価格転嫁で対応しています。一点、当社固有の影響として、屈折率が1.74の超薄型レンズ製品において、中東由来の原材料の調達が困難な状況が発生しましたが、概ね緩和方向に向かっております。また、メガネレンズ事業に占める割合が5%程度と売上に対する影響度は比較的小さいことから、全体ではマネジャブルと考えております。

情報・通信

- Q ブランクスのキャパシティ状況と今後の計画を教えてください。
- A EUVブランクスは、現有の工場に装置を追加しながら稼働率をあげて需要に対応してまいります。また、500億円を投じ、新工場の設立を決定、28年度より稼働開始を予定しています。当初は建屋に対して一部に製造ラインを設置し、順次、顧客の需要増に応じてライン数を拡大させていく計画です。一方、DUVブランクスは、現状は追加投資の予定はなく、現有キャパシティの中で引き続き対応してまいります。
- Q HDD基板の新工場設立を決定されましたが、これは新規顧客を見据えてでしょうか。
- A 全てのHDDメーカーがガラス基板を採用する蓋然性が高まったことや、今後もニアラインHDDに対する旺盛な需要が続く見通しから、新工場の設立を決定いたしました。
- Q CUPOの売上はFY25は倍増したとのことですが、FY26の成長率はどれくらいを見込んでいますでしょうか。
- A FY25は非常に低いベースより売上が大幅増加し、売上のベースラインができましたので、FY26は市場並みの成長（30-40%）を想定しています。

ライフケア

- Q MIYOSMARTの日本での販売状況について教えてください。
- A 今年の6月1日から、「ミヨスマート」という呼称で日本での販売を開始いたしました。処方眼科医や眼鏡販売店における展開拡大を図るべく、製品の認知活動を積極的に行ってまいります。
- Q FY25 Q4のメガネレンズのCC成長率が2%と低い数値でしたが、背景に何があるのでしょうか。
- A 欧州において一部顧客ロスが発生、米国においてマネジメント交代により組織再編があったことが影響しました。一過性の要因ですので、FY26は通常通り、一桁半ばの成長率を目指します。

Q 内視鏡の構造改革の進捗はいかがでしょうか？

A FY25は、手術器具や衛生ソリューションなどの周辺製品の他社への事業譲渡などにより製品ポートフォリオの選択と集中を進めました。また、FY26上期には工場の統廃合を完了させる方針であり、構造改革は計画に沿って進捗しております。

※以前の四半期と重複する質問については、掲載は割愛しました。よろしければQ1、Q2、Q3のFAQも併せてご参照ください。

- [FY25 Q1 FAQ](#)
- [FY25 Q2 FAQ](#)
- [FY25 Q3 FAQ](#)

以上

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。

歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、現在問題となっている新型コロナウイルスをはじめとする疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

お問い合わせ先:h-ir@hoya.com